

暮らす、生きる。  
阿智家族

小倉 功輔さん(40) 弘美さん(41)  
健男くん(9) 健児くん(6)



「生活のメインとなるこの部屋は、大工の大家さんに補修していただきました。」  
天窓から自然光が降り注ぐダイニングキッチンにて。健男くんと健児くんはやんちゃざかりで元気いっぱい!

村や地域の行事やお祭りには、  
可能な限り顔を出しています。  
地域との接点は、意識して持つように  
しているかもしれませんね。



こんな恵まれた条件、  
なかなかないですよ。

「庭付き二戸建ての6LDK。築年数はある程度たっていますけれど、システムキッチン、トイレやお風呂などは入居前にリフォーム済み。そのうえ、必要があれば自分で造作をしてもいい。こんな恵まれた条件ってなかなかないですよね!」そう語る小倉功輔さん。

空き家だった現在の住まいには、2016年4月に賃貸契約として入居。確かに近隣の市町村を見てもこの広さと設備で借りられる家は、そう多くはないはずだ。

愛知県岡崎市出身の功輔さんは、大学卒業後、根羽村の木材会社に就職し、住まいを阿智村に移した現在も根羽村に勤務する毎日を送っている。

「林業に興味を持ったのは大学4年のとき、和歌山県の森林組合にアルバイトに行ったことがきっかけです。地元である岡崎からできれば近いところで就職できたらと考えていたところ、民間の企業でありながら長年伐採・造材・搬出に取り組み現在の会社に出会いました。結婚までの7年は根羽の単身用アパートに、結婚してからは村営住宅に暮らしていました」

高校までは  
自宅から通ってほしい。

仕事先に近い根羽での暮らしから、住まいを阿智村に移そうと考えたのはそもそもどんな理由からだったのだろうか。

「大きな理由は子どものことだと思っています。今のままでは飯田市などに下宿をする可能性が高いことを考えたとき、高校までは自宅から通ってほしいという気持ちが大きくなりました。それで、次男が生まれて少したった頃から、阿智から稲武あたりまでの通勤圏内で家を探し始めたのです。阿智村の定住支援センターに初めてお世話になったのは、2年ほど前。最初は浪合で村営住宅を紹介していただきました。この家の入居を決めたのは今年の始めだったと思います」



「技術を磨いていけばどこにいても必要とされる人間になれる、という恩師の言葉を胸に刻んで日々楽器に向かってるんです」と弘美さん。ピアノを前にした弘美さんは、本当に美しく幸せそうだ。

お友だちともすぐになじめて  
今では日が暮れるまで  
毎日遊んでいます。

妻の弘美さんは静岡県浜松市出身。音楽大学を卒業し現在は子育てをしながらフルート奏者、リトミック、ピアノ教師としての活動を続けている。

「根羽は第二のふるさと。育ってきた浜松だけでは経験し得ない深いつながりやおつきあひがありましたから、自分も子どもたちも果たして阿智でもうまくやっついていけるのだろうかと本当に不安でした。長男は小学校3年からの転入、次男は入学のタイミングで阿智第三小学校にお世話になっていま

すが、先生方が親身になって関わってくださり、お友だちともすぐになじめて今では日が暮れるまで毎日遊んでいます。皆で声をかけあつて集まって遊ぶ。それが自然にできる子どもたちの姿を見ていると、ここでもやっついていけそう



演奏者としての弘美さんのいちばんの理解者はやはり功輔さん。「以前に何度かコンサートで演奏したこともあったので、阿智でもフルートの音色を楽しんでいただけたらなあ」とぼつり。

だなという想いが湧いてくるんです」

阿智の皆さんは、  
とてもあたたかく受け入れて  
くれるなあという印象です。

中学から大学まで野球ひとすじの青春を送った功輔さんは現在、毎週日曜日「智里・伍和少年野球クラブ」のコーチとして子どもたちに向き合っている。小学校1年生の健児くんは、チームの員として白球を追い始めたばかりだ。

阿智村に暮らして8ヶ月。2度目の移住を経た現在の心境を尋ねてみた。

「村や地域の行事やお祭りには、可能な限り顔を出しています。少年野球のコーチもそうですが、自分は地域との接点を意識して持つようにはしているかもしれませんね。阿智の皆さんは、とてもあたたかく受け入れてくれるなあという印象です。この家には、妻のグランドピアノが置ける洋室がまる



詩の綴られた健男くんの日記。「いい詩だね。両方体けんできたけ男さんは、幸せ。」と書かれた先生の朱文字があったかい。



少年たちの秘密基地は、なかなかの本格派。お父さん譲りなのか木材加工も手もの。

ですつらえたようにありました。近所に迷惑をかけることなくピアノが弾ける環境は、なかなかないと思います。音楽を通して地域とのつながりが増えていったらいいなと願っていますね」

健男くんが日記に書いた篇の詩を見せてくれた。そこには、子ども目の目を通した豊かな感性と、自分が育ったふたつのふるさとへのまっすぐな視線があった。

『いい所とわるい所』

根羽ではしぜんがきれいだ。だけど

友だちとはあそべない。それは、

うちとうちがはなれているから。夜きこえるのは川の音

阿智では車がたくきんとおる。だけど、

ふれあえるきよりに友だちがいる。夜きこえるのは車の音

根羽と阿智のいい所とわるい所、いろいろな村。

この補助金も加えて利用!

ぬくもりの田舎暮らし推進事業補助金

左記の空き家登録された空き家が対象です。定住者への補助金は5年以上居住していただくことが条件であり、これを満たさない場合は一部返還が必要です。



対象 阿智村空き家情報活用制度の空き家データベースに登録された、貸し出ししたい物件に対し、不要物処理等または空き家の簡易な改修に要する経費を補助します。

補助額

- ①所有者/家財道具等の運搬および処分・屋内および屋外の清掃  
【補助率】10分の10  
【限度額】..... 20万円  
【条件】空き家所有者。同一の建物につき1回のみ補助。
- ②定住者/台所・浴室・便所・洗面所等の改修、内装・屋根・外壁等の改修  
【補助率】10分の5  
【限度額】..... 50万円  
【条件】定住者。同一の建物につき1回のみ補助。

※2016年4月1日からの定住者支援・補助内容です。詳しくは下記まで。

小倉さんもこの制度を利用されました!



阿智村役場 定住促進係 河合です

空き家にお悩みの方は、まず空き家登録してみませんか?



阿智村役場定住支援センターでは、空き家所有者の空き家登録を受け、賃貸借および売買可能な空き家については、『阿智村空き家情報』として情報公開しています。

少子高齢化により、村内の空き家は増加

傾向にあります。空き家を放置すると、景観や防犯面だけでなく衛生上や通行人への悪影響などさまざまな問題が生じます。

そんな空き家問題の解決のひとつとして、移住者に暮らしてもらい、住宅を維持するという方法があります。小倉さんはこのケースです。

定住支援センターでは移住希望者に空き家をご紹介します。契約は移住希望者と所有者との間で直接行っていただきます。

空き家は先祖代々暮らしてきた家が多く、すでに地域のコミュニティーの中にあるため、居住していただくことにより、地域活動の維持にもつながります。



星ふるさと 阿智村 日本一の星空と花桃といて湯の郷

“定住”に関するご相談・お問い合わせはお気軽に

阿智村役場 定住支援センター まで ☎0265-43-2220 (内線513)

〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場483 FAX0265-43-3940 teijyu@vill.achi.nagano.jp http://www.vill.achi.nagano.jp



www.vill.achi.nagano.jp/site/teiju/ 阿智家族 検索



詳しくはパンフレット、ホームページをご覧ください!

阿智村役場にお越しになれない方は、住所・氏名・年齢・職業を明記の上、左記までお申し込みください。